

次世代ロボティクス家電開発の加速に向け

「パナソニック・千葉工業大学産学連携センター」を設立

パナソニック株式会社(本社:大阪府門真市 社長:津賀一宏 以下、パナソニック)と学校法人千葉工業大学(理事長:瀬戸熊修)は、本日「パナソニック・千葉工業大学産学連携センター」(以下「連携センター」)を設立しました。千葉工業大学が保有する最先端ロボット技術・知能化技術、そしてそれらを統合し完成度の高いロボットを開発する能力と、パナソニックの持つ信頼性の高い家電製品の企画・開発力とを融合し、アイデア創出から具現化、製品化に向けた技術開発を、大学と企業の両者が共同で取り組んでいきます。

同センターの連携第一弾として、パナソニックは、千葉工業大学 未来ロボット技術研究センター※1が開発したセンサー情報を用いた高速空間認識技術「ScanSLAM」を活用し、次世代ロボティクス家電の製品化に取り組めます。一般にSLAM(Simultaneous Localization and Mapping)は、レーザーやカメラ等のセンサーの情報を解析して自己の位置を推定しつつ周囲の地図を構築する、自動操縦やロボットにおける「人間の目」の役割に相当するコア技術です。「ScanSLAM」は、高速処理が可能な世界トップレベルの性能を有しています。

従来、大学と企業との産学連携拠点の多くは基礎研究などのR&Dを目的としており、今回のように製品開発を前提とし大学の先端技術の提供を目的としたセンターの設立は、国内では極めて稀なケースです。この取り組みにより、大学が有する数々の先端技術が円滑かつスピーディーに実用化され、未来社会が切り開かれることが期待できます。

千葉工業大学とパナソニックは、連携センターを通じてオープンイノベーションを加速させ、次世代ロボティクス家電等の製品開発を通じ「新しいくらい価値」を発信していきます。

【連携センター概要】

名称	パナソニック・千葉工業大学産学連携センター
所在地	千葉県習志野市津田沼2丁目17-1(千葉工業大学内)
開所日	2017年12月13日
責任者	センター長:古田 貴之 (千葉工業大学 未来ロボット技術研究センター所長、同大学常任理事兼務) 副センター長: 洲上 英巳 (パナソニック アプライアンス社常務 技術担当・(兼)技術本部長)
設立の目的	産学連携による次世代ロボティクス家電製品の具現化と商品化に向けた技術開発

※1:千葉工業大学 未来ロボット技術研究センター(fuRo・フューロ)

日本の工科大系大学の中で最も長い歴史を有する千葉工業大学が設立したロボット技術の研究拠点、それがfuRo(未来ロボット技術研究センター)です。ロボットクリエイター古田貴之博士が率いる総勢20名の研究者で構成されています。ロボットの人工知能技術を競うサッカー競技会:RoboCup2014 ブラジル世界大会では、人間型ロボット部門全4種目優勝し、完全制覇を達成。本年行われたRoboCup2017でもヒューマノイドリーグテクニカル部門にて優勝、日本におけるロボット自動操縦技術を競う「つくばチャレンジ」では唯一の3年連続ミッション達成など、高度な人工知能技術、自動操縦技術を有します。一方、福島第一原発の事故では世界で唯一、原発建屋内全5階層を走破できるロボットを開発し提供、事故原発の冷温停止の政府宣言のための探査等、数々のミッションを達成してきました。機械・電気回路設計から高度な人工知能・センシングまで、ロボット技術のすべてを高レベルで研究開発および統合することを得意としています。

以上

プレスリリースの内容は発表時のものです。

商品の販売終了や、組織の変更等により、最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。